



理念 患者さま一人ひとりを大切にする医療を目指します。



院長退任のごあいさつ

前院長 重田 みどり

2024年9月30日をもち、下志津病院を退職いたしました。4年半の在職中は大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

石毛名誉院長の後任として千葉医療センターから参りました時に、患者さまに優しく接している職員の様子をみて、当院の理念を“患者さま一人ひとりを大切にする医療をめざす”としました。

2020年に始まったコロナ禍では、最初は院内にウイルスを入れないために2病棟をコロナ疑い病床と

しました。そこでは、コロナに立ち向かうために、自ら手を挙げてくれた職員“サニーズ”の皆様が奮闘してくれました。その後、病態が解明され治療薬が入手できたため、コロナ病床を4床つくり、感染対策チームの熱心な指導のもとコロナ患者を受入れました。新しい局面にも対処できる職員の対応力は誇れるものでした。

また、地域の方々へのコロナワクチン接種では、療育訓練室に接種会場を設け、各職場から人員を出して、病院一丸となって約3万回の接種を行いました。ここでもまた、職員の大いなる力が発揮されました。

そして、2024年4月には、2年前から計画していた病棟再編を実施しました。プロジェクトチームを中心に知恵を出し合い、協力して数々の問題を解決していきました。今後も地域から求められる役割を果たし、信頼される病院であり続ける未来を、皆様の力で作っていきましょう。さらなる下志津病院の発展を本部から後押ししながら見守っております。本当にありがとうございました。

Index

| | |
|---------------|---|
| 新任のご挨拶 | 2 |
| 子ども健康教室 | 3 |
| 芸術鑑賞会 | 4 |
| 職場紹介 | 5 |
| リハビリテーション科だより | 6 |
| 地域医療連携室より | 7 |





夏休み子ども健康教室を 開催しました！



3病棟（小児科病棟）看護師長 平野 こずえ

7月22日(月)～7月24日(水)の2泊3日で、夏休み子ども健康教室を開催しました。子ども健康教室とは、小・中学生を対象に、主に肥満傾向にあるお子さんに対して、楽しみながら食事や運動の大切さを勉強し、自分自身の健康について考えるきっかけとしてもらいたいという目的で、約20年前から下志津病院が行っている取り組みです。今年の健康教室の様子について、皆さんにご報告します。

今年は、小学3年生から中学2年生までの男女10名が参加しました。初日の開会式やオリエンテーションでは、少し緊張した様子で、しかし、頑張って一人ひとりが自己紹介をして、自分の目標を発表してくれました。その後は親子で、小児科医師から「脂肪と肥満」、管理栄養士から「食事と栄養について」のお話を聞きました。その後は親子で一緒に病院の昼食を食べ、いよいよ仲間たちだけでプログラムの開始となりました。まずは、小児科医師が考案したダンササイズをみんなノリノリで踊ります。次は、管理栄養士が、おやつを選び方について一緒に考えてくれました。いつもお家で食べているおやつを持ってきて、「食べてはだめ」と話すのではなく、「どのように組み合わせたら、食べられるのか」という視点で教えてくれました。

健康教室は、入院形式となりますので、男女や年齢に分かれて自分のベッドで寝たりプレイルームで遊んだりします。基本的には、自分の事は自分で行うように声掛けをします。また普段使用している携帯電話やゲームは持ち込み禁止ですので、夜は家から持ってきたテレホンカードを使って、公衆電話からお父さんお母さんに電話をしました。ほとんどのお子さんが初めて公衆電話を使いました。初めて保護者の方と離れてお泊りをするお子さんもありましたが、保育士と看護師が声をかけながら一人ひとりに寄り添って接することで、安心して病院での生活が送れたようです。2日目3日目は6時に起床し、ラジオ体操から始まります。その後は下志津病院のお隣にあります四街道支援学校のプールをお借りして、水泳を行いました。支援学校の先生や小児科医師、看護師、保育士がみんなプールに入って、元気に泳ぎました。水泳が少し苦手なお子さんも、みんなと一緒に楽しそうに体を動かしていました。

その他にも様々な体験をしてもらい、2泊3日はあっという間に過ぎました。最後の閉会式では、少し日焼けしてたくましくなったお子さんの顔を見ることができ、またそれぞれが今回の入院の目標を達成した・近づくことができたと話されていて、我々もうれしく思いました。

子ども健康教室は、近年増加傾向にある子どもの生活習慣病の予防ために、肥満に関する正しい知識を親子で学ぶ機会であり、「自分の健康は自分で守る」という自覚を高めることにつなげていきたいと考えています。今後は参加者の体重変化や意識づけなどの継続した取り組みを行い、子どもたちの未来を多職種で支援し、地域の皆様の健康の保持・増進に努めていきたいと考えています。



職場紹介

1 病棟の紹介

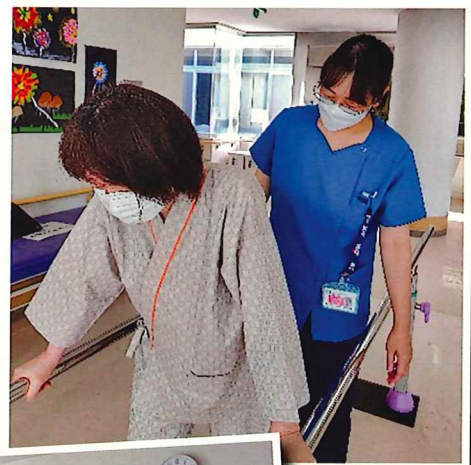
看護師長 佐藤 孝宏
副看護師長 南波 江利
宮川 拓也

下志津病院の1病棟は令和6年4月に42床の地域包括ケア病棟として再編成されました。急性期治療を終え、退院後の生活を安心して迎えるための準備とリハビリを必要とする患者さまが入院されています。明るく広いデイルームには歩行練習に使用する平行棒や階段歩行の練習器具、エルゴメーター（ペダル踏み運動器）などを設置したリハビリスペースがあります。

高齢での入院は少なからず運動機能が低下することがあります。「住み慣れた自宅に今の運動機能で安全に過ごすことができるのか」「安心して退院することができるのか」という気付きを解決するために、退院前に患者さまのご自宅へ看護師が訪問し、安全に生活するための環境を確認・調整をしています。

また、入院は生活リズムが単調になりやすいです。手足や体を動かすことで脳を活性化させて季節感を感じられるようなレクリエーションを実施しています。

入院中の不安や退院後の生活など、患者さまに関わるスタッフが一丸となり、患者さまやご家族さまの希望に沿えるよう全力でサポートいたします。



地域医療連携室より

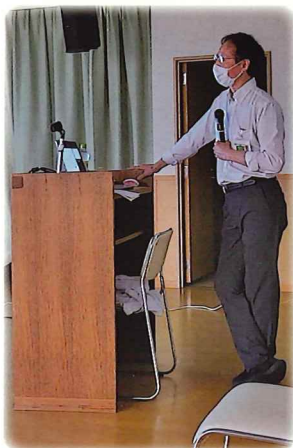
多職種協働研修会を 開催しました！



6月27日に下志津病院の療育訓練室にて、四街道市在宅医療介護連携支援センター主催の第21回地域連携の会を開催しました。

まずは、鬼頭副院長の講義で心不全について、心臓の仕組みから心不全が起きるメカニズムや受診目安、管理の重要性などを学びました。ケアマネジャーや訪問看護師、地域の薬剤師など様々な職種の方々から「わかりやすかった」「集中できた」と好評をいただきました。

残りの時間を使って意見交換会を行い、医療介護連携で困っている事、自分たちの取り組みなどの意見を出し合い、和気あいあいと交流することが出来ました。



市民公開講座を 開催しました！

7月25日は下志津病院の療育訓練室にて、四街道市在宅医療介護連携支援センター主催の市民公開講座を開催しました。

テーマを「退院後の生活あれこれ」として、下志津病院の木村ソーシャルワーカーより退院後の生活の変化について説明の後、コープみらい四街道訪問看護ステーションの福島一美所長より、自宅で介護が必要になった時の介護保険の利用方法や、実際にどんな生活が出来るのかをご講演いただきました。

福島所長の具体的なお話と温かいメッセージに、参加者からは「介護サービスの多様さなどが学べた」などのご意見とともに、「嬉しかった」「感激した」などの感想もいただきました。



四街道市在宅医療・介護連携支援センター

【市民公開講座】

退院後の生活あれこれ

～入院で変化する生活と自宅で受けられる介護サービス～

【日時】 2024年7月25日（木）14:00～15:30

【場所】 国立病院機構下志津病院 療育訓練室

講師：コープみらい四街道訪問看護ステーション所長
看護師 福島一美
下志津病院 医療社会事業専門職 MSW 木村聡子

対象 市内在住・在勤の方。 *受講費無料

定員 40名 要予約

持ち物 筆記用具・寒暖対策できるもの。

マスク着用での参加を推奨します。

その他 ・感染症拡大での中止や会場変更等があった場合は、申し込み時にいただいたお電話番号にご連絡いたします。
・同様のご案内を6月15日号の市政だよりにも掲載しております。

申し込み期間・問い合わせ

6月17日～7月18日

在宅医療・介護連携支援センターまで

☎420-8139

